

令和3年度
年 報

第 29 号



福井県自然保護センター

は じ め に

令和3年度は、夏に東京でオリンピック・パラリンピックが開催され、福井県出身の多くの選手がメダルを獲得するなど、コロナ禍の中で私たちに勇気と希望を与えてくれました。

こうした中、当センターでは企画展として「自然観察の森の生きものたち」、「ふくい星空写真展」、「奥越高原県立自然公園と生きものたち」を開催し、多くの方に来館いただきました。

5月には、越前市で足に糸が絡まったコウノトリのヒナを当センターで保護し、毎日、職員が交代で怪我の手当や給餌等を行ったものの、約1か月後に亡くなるという事があり、傷病鳥獣救護の難しさを痛感したところです。

恒例の「冬の野鳥レストラン」では、エサ台の配置や観察室の設営を工夫し、昨年度に引き続きソーシャルディスタンスに気を付けながら野鳥を観察していただきました。

天文分野では、当センターが北陸三県で初の「星空案内人（星のソムリエ®）養成講座」実施団体として認定され、講師の方々の多大なご協力をいただき講座を開催したところ、計7回（2か月）にわたる長期の講座にも関わらず県内外から多くの方が受講され、その8割の方が全ての単位を取得されました。

また、講座の様子は地元の新聞やテレビで報道され、予想以上の好評をいただく中で星空案内人・準案内人（星のソムリエ®）の第一期生を輩出することができました。

さらに、福井工業大学への出張講座「天文リーダー養成講座」を計3回開催し、秋には海外からの留学生を含む学生を当センター観察棟へ招き、実際にプラネタリウムや天体望遠鏡を体験してもらうなど、星空や宇宙について語ることができる人材の育成に向け、これまでにない新たな一歩を踏み出したところです。

この年報は、このような当センターの1年間の事業活動を取りまとめ記録しておくため

に毎年発刊しています。今後とも、福井の豊かな自然や美しい星空を私たちの子孫に継承していけるよう、自然との「共生」に向けて活動を続けてまいります。

最後に、日頃より当センターの事業を支えていただいている運営会議委員、自然観察指導員の会、各天文クラブをはじめとする関係団体の皆様など多くの方々に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

福井県自然保護センター所長 竹 原 秀 夫

目 次

I	自然保護センターの概要	1～3
1	施設の概要	1
2	施設の平面図・面積表	2
3	組織と事業概要	3
II	自然保護センターの事業の展開	4～29
1	展示事業	4～6
	(1) 常設展示 (2) 特別展など (3) 生体展示	
	(4) 冬の野鳥レストランの開設 (5) 入館者数	
2	指導普及事業	7～18
	(1) 自然観察会などの企画開催 (2) 天体観望会などの企画開催	
	(3) 館内・自然観察の森ガイド (4) 特別企画など	
	(5) 生き物百葉箱事業 (6) インターネットによる自然情報の発信	
	(7) 広報誌の発行 (8) 傷病鳥獣救護	
	(9) 自然に関する相談、対応	
	(10) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業	
	(11) 侵略的な外来種防除対策	
3	研修養成事業	19～20
	(1) 天文リーダー養成研修 (2) 星空案内人（星のソムリエ®）養成講座	
	(3) 研修生受け入れ	
4	資料収集事業	21
	(1) 標本資料 (2) 視聴覚資料 (3) 文献資料 (4) 天文写真資料	
5	調査研究事業	22～24
	(1) 渡り鳥保全調査（鳥類生息状況調査）	
	(2) カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）	
	(4) ブナ科樹木の豊凶調査	
	(5) ヤシヤゲンゴロウの生息域外保全事業	
	(6) Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行	
6	その他	25～29
	(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催	
	(2) 大型野生動物の救護・放獣に関わる指導協力	
	(3) コウノトリの足環装着作業の協力	
	(4) 職員の派遣 (5) 委員の受託など (6) 事業協力を行った関係団体	
III	そ の 他	30～37
1	1年のあゆみ	30～31
2	施設利用実績	32～34
3	運営会議	35
4	関係条例・規則	36～37

I

自然保護センターの概要

1 施設の概要

1. 所在地：福井県大野市南六呂師 169－11－2

2. 施設の概要

(1) 本館（平成2年度完成、平成14年度展示更新）

- ①面積 建築面積：1,151.13 m² 延床面積：2,111.27 m²
- ②構造 木造・鉄筋コンクリート混構造3階建（地下1階、地上2階）
- ③施設 1階：展示室、レクチャーホール、ボランティアルーム、事務室等
2階：展示室、森の学習室、工作室、会議室等
地下：資料室、飼育室等

(2) 観察棟（平成元年度完成）

- ①面積 建築面積：209.62 m² 延床面積：418.86 m²
- ②構造 鉄筋コンクリート3階建
- ③施設 1階：プラネタリウム室（座席44名）、事務室
2階：野外観察室（観察用望遠鏡設置）
3階：天体観察室（80cm反射式望遠鏡1台、付属望遠鏡設置）

(3) 自然観察小屋2棟（平成3年度完成）

- ①面積 建築面積：19.72 m² 延床面積：27.36 m²（それぞれ1棟当たり）
- ②構造 木造2階建
- ③施設 1階、2階：動物観察室

(4) 自然観察の森（平成4年度完成）

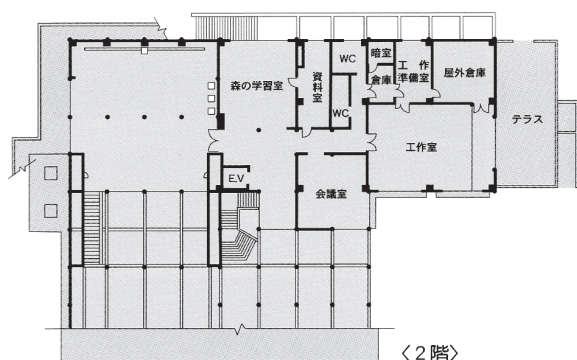
- ①面積 約28ha
- ②施設 広場：学習広場、ファミリー芝生広場
遊歩道：アプローチ道路やとんぼの小路など
湿原等：妻平湿原、馬取池、とんぼの池

3. 自然保護センター開館日

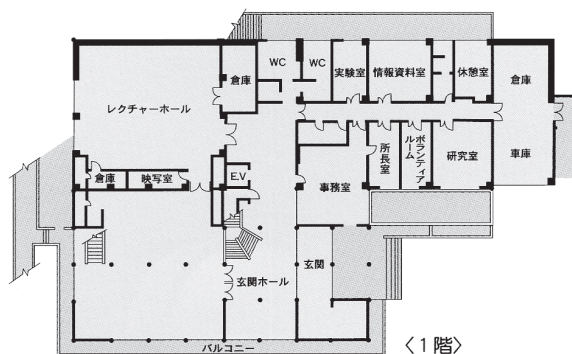
平成2年7月12日

2 施設の平面図・面積表

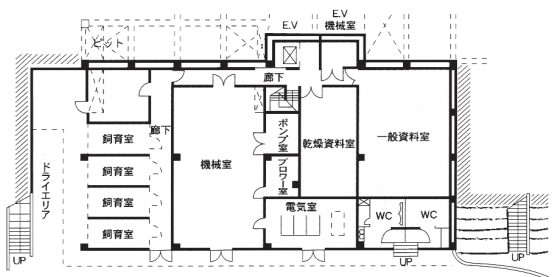
本館



〈2階〉



〈1階〉



〈地下1階〉

本館面積表(2,111m²)

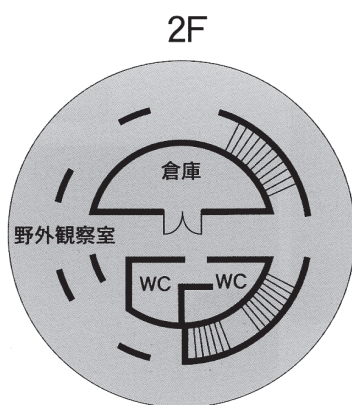
地 階		1 階		2 階	
室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)	室 名	面積(m ²)
一般資料室	69	展示室	313	展示室	277
乾燥資料室	43	レクチャーホール	165	森の学習室	60
飼育準備室	23	事務室	61	資料室	28
飼育室(4室)	54	所長室	20	工作室	84
機械室	95	ボランティアルーム	19	工作準備室	22
電気室	28	研究室	40	会議室	52
廊下・ブローワー室	103	休憩室	28	倉庫	43
ポンプ室・エレベーター		情報資料室	35	暗室・便所・その他	67
他		実験室	20		
		映写室	11		
		車庫	76		
		倉庫	29		
		廊下・更衣室・ポーチ	246		
		玄関・便所・他			
合 計	415(m ²)	1 063(m ²)			633(m ²)

3F

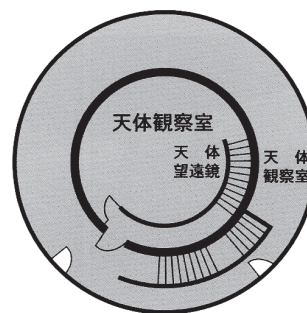
観察棟



1F



2F

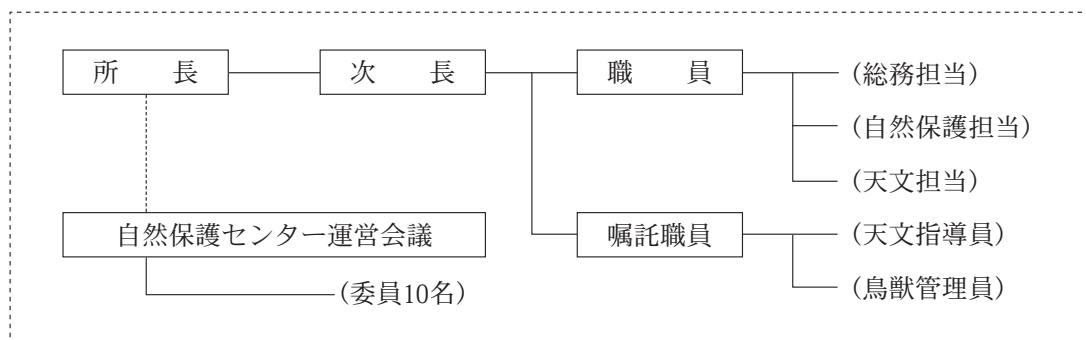


観察棟面積表(418m²)

階	室名	面積(m ²)	計
1	プラネタリウム室	45	132m ²
	ホール	41	
	事務室	16	
	玄関・倉庫・その他	30	
2	観察室	111	154m ²
	倉庫	15	
	その他	28	
3	天体観察室(内)	45	132m ²
	天体観察室(外)	67	
	階 段	20	
合計			418m ²

- 1階 プラネタリウム室 44名収容 スクリーン直径6.5m
 2階 野外観察室 50名収容 7台の野外観察用望遠鏡-動・植物の観察
 3階 天体観察室 50名収容 口径80cmの反射望遠鏡1台 口径10cmの屈折望遠鏡2台
 口径20cmの屈折望遠鏡1台 口径20cmの反射望遠鏡3台
 TVカメラ装置の設置

3 組織と事業概要



■職員構成 (令和3年度)

職種 \ 担当	所長	次長	総務	自然保護・天文	計
事務	1	1	1	1	4
自然保護職				2	2
教職員				1	1
嘱託職員				2	2
計	1	1	1	6	9

■事業概要 (令和3年度)

- 展示事業
 - 常設展示
 - 特別展など
 - 生体展示
 - 冬の野鳥レストランの開設
- 指導普及事業
 - 自然観察会などの企画開催
 - 天体観望会などの企画開催
 - 館内・自然観察の森ガイドの実施
 - 特別企画
 - 生き物百葉箱推進
 - 普及誌の発行、自然情報・イベント情報の発信
 - 傷病鳥獣救護
 - 自然に関する相談、対応
 - 重要里地里山保全活動、生き物共生ホットエリアへの支援事業
 - 侵略的な外来種防除対策
- 研修養成事業
 - 天文リーダー養成研修
 - 星空案内人（星のソムリエ®養成講座）
 - 研修生受け入れ
- 資料収集事業
 - 各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管
- 調査研究事業
 - 渡り鳥保全調査
 - カモ科鳥類生息調査
 - カワウ生息調査
 - 自然観察の森周辺環境調査
 - ブナ科樹木の豊凶調査
 - ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業
- その他
 - 福井県自然保護関係機関連絡会議
 - 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力
 - コウノトリの足環装着作業の協力
 - 職員の派遣

Ⅱ 自然保護センターの事業の展開

1 展示事業

自然保護に関する情報や調査研究、資料収集の成果を公開し、県民に自然の素晴らしさと保護の重要性を伝えた。

(1) 常設展示

本館（平成 14 年度に更新）

【1 階】

「自然観察へ行こう」
「福井の水辺を考える」
「刈込池のブナ林」
「レクチャーホール標本展示」

【2 階】

「森の仲間たち」 「福井の自然観察三昧」
「山のめぐみ」 「失われ行く生物多様性」
「生物を守る努力」
「地球環境問題を考える・エコロ人度チェック」
「森の学習室」 「ビデオコーナー」

観察棟

【1 階】

「太陽系展示パネル」
「天体写真」コーナー

【2 階】

「隕石」コーナー
「彗星」写真コーナー

(2) 特別展など

タイトル	期間	会場	展示内容
GW 特別展「自然観察の森の生きものたち」	令和 3 年 4 月 23 日～ 6 月 20 日	1 階レクチャーホール	自然観察の森で見られる植物や昆虫、鳥、哺乳類等の生きものの標本や剥製等を展示し紹介
ふくい星空写真展	7 月 9 日～ 8 月 31 日	1 階レクチャーホール	過去 3 年以内に福井県内で撮影された一般公募の写真約 50 点を展示
企画展「奥越高原県立自然公園と生きものたち」	9 月 10 日～ 11 月 14 日	1 階レクチャーホール	奥越高原県立自然公園の見どころとそこに生息する生きものたちについて、パネル・標本・剥製等で展示し紹介
ミニ展示「冬に見られるカモのなかまたち」	11 月 20 日～ 令和 4 年 3 月 31 日	1 階レクチャーホール 前廊下	県内で冬に見られるカモ類の剥製を紹介
自然の中の「とら」	12 月 18 日～ 令和 4 年 3 月 31 日	1 階事務室前掲示板	2021 年の干支「寅」にちなんで名前に「とら」をもつ生きもの等を写真や標本等で紹介
白山国立公園パークボランティア写真展 2021	12 月 22 日～ 令和 4 年 1 月 18 日	1 階レクチャーホール	白山国立公園パークボランティアが撮影した白山国立公園の写真を展示

(3) 生体展示

タイトル	期間	会場	主な展示物
ヤシャゲンゴロウ	年間	1 階玄関ホール	ヤシャゲンゴロウ（成虫）
北潟湖や池ヶ原湿原の水生生物	年間	1 階玄関ホール	スッポン、イシガメ、クサガメ、ギンブナ
自然観察の森の生きものたち	5 月～3 月	1 階展示室・2 階森の学習室等	アカハライモリ、モリアオガエル、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、コクワガタ、オオコオイムシ、ガムシ、スズムシ等

(4) 冬の野鳥レストランの開設

野鳥の餌が少ない冬期間（令和 4 年 1 月 5 日～2 月 27 日）に、屋外に餌台を設置し、野鳥を室内から観察できる場を設けた。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、例年よりも規模を縮小し、エサ台を窓際に限定したため、訪れる野鳥の種類は少なかったが、頻繁に訪れるヤマガラやシジュウカラ等の小鳥の様子を間近で観察することができた。

期間中に観察できた野鳥は 10 種であった。

観察できた野鳥（10 種）

ヤマガラ、シジュウカラ、コガラ、カケス、コゲラ、メジロ、オオアカゲラ、シロハラ、キジバト、ハイタカ

「冬の野鳥レストラン」期間中入館者数（人）

	令和 3 年度	令和 2 年度
1 月	1,725	1,133
2 月	1,693	2,627
計	3,418	3,760

(5) 入館者数

	令和 3 年度	累計人数（人）
本 館	13,550	675,226
観察棟	3,123	424,324
計	16,673	1,099,550

ただし、観察棟入館者数は、天体観望会の参加人数を含む。

<入館者の推移>

年度	本館入館者	観察棟入館者	合計入館者
H29	24,988	12,048	37,036
H30	22,752	10,381	33,133
H31・R1	21,384	8,807	30,191
R 2	18,179	4,291	22,398
R 3	13,550	3,123	16,673



写真左：特別展「自然観察の森の生きものたち」
写真右：冬の野鳥レストランにやってきたメジロ



2 指導普及事業

自然保護の指導普及のために、以下の事業を実施した。

- ・ 自然を知り学ぶための普及啓発行事の企画、開催
- ・ 自然情報の発信
- ・ 自然や傷病鳥獣に関する相談回答
- ・ 生物多様性の保全のための調査や支援活動

(1) 自然観察会などの企画開催

◆自然観察ウォーク

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
春の六呂師高原観察ウォーク 「氷河期の生き残り！ミツガシワにあおう」	5月8日(土)	自然保護センター周辺	中止
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。			
初夏の六呂師高原観察ウォーク 「苔だけじゃないよ平泉寺」	7月3日(土)	平泉寺白山神社	23
平泉寺の石垣や石畳から歴史を学ぶとともに、苔などの植物についての観察を行った。			
秋の六呂師高原観察ウォーク 「秋のトンボと鳴く虫」	9月25日(土)	六呂師高原周辺	26
この時期に鳴く虫の事前学習をした後、野外に出てトンボの採集と観察を行った。			
里山観察ウォーク 「スノーシューで森の探検！」	2月12日(土)	自然保護センター	中止
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。			

◆夏休み標本教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
美しい植物標本を作ろう	7月24日(土)	自然保護センター	22
午前には植物採集の方法・注意点の説明を実施した後、自然観察の森において植物採集を実施した。午後は館内で標本作成の方法の説明をした後、採集した植物の標本作成を実施した。			
作ってみよう昆虫標本	8月7日(土)	自然保護センター	中止
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。			

◆愛鳥教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
コウノトリ観察会	7月17日(土)	越前市白山公民館	18
午前は福井県におけるコウノトリ定着推進事業の概要やコウノトリの生態などについての講演を実施し、午後は野外でエサを探すコウノトリや空を飛ぶコウノトリを観察した。			



写真左：夏休み標本教室「美しい植物標本を作ろう」

写真右：秋の六呂師高原観察ウォーク「秋のトンボと鳴く虫」

(2) 天体観望会などの企画開催

◆天文教室

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
天体望遠鏡を作ってみよう	7月18日(日)	自然保護センター本館	16
はじめに、天体望遠鏡のしくみにを説明した後、天体望遠鏡工作キットを作製した。次に、望遠鏡の使い方、天体の導入の仕方を説明した後、作成した望遠鏡を使って野外での天体観望を実施した。			
天の川を撮ろう	8月8日(日祝)	自然保護センター観察棟	中止
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した。			
本格的な天体写真を撮ろう	10月1日(金)	自然保護センター観察棟	3
はじめに、天体写真を撮影するための準備として、望遠鏡の組み立てや操作等の講座を実施した。次に、星空写真展の作品の紹介をしながら、天体写真・星景写真の概要について説明し、野外で講師がそれぞれに見ることのできる天体を導入し、参加者に撮影の体験をしてもらった。			
星のある風景写真(星景写真)を撮ろう	3月12日(土) 3月25日(金)	福井市自然史博物館 自然保護センター観察棟	26
デジタル一眼レフカメラを用いて星のある風景写真を撮影する方法を学ぶ講座を2回シリーズで開催した。固定写真の撮影方法についての講義を聞いた後、野外で天体写真の撮影を実践し、その後タイムラプス動画撮影についての講座を実施した。			

◆特別天体観望会

テ ー マ	実施月日	場 所	参加人数(人)
皆既月食を見よう	5月26日(水)	自然保護センター 観察棟	27
皆既月食が全国で観測でき、さらにスーパームーンとなる日に観望会を実施した。肉眼や双眼鏡、望遠鏡で月食の観察を行う予定であったが、あいにくの天気のため観望はできなかった。そこでスライドを使った月食の説明や、懐中電灯とボールを使った演示実験を行った。			
七夕まつり	7月7日(水)	自然保護センター 観察棟	14
街の明かり等でなかなか見られない天の川等を観望する会を実施した。当日はあいにくの天気のため観望はできなかったが、本館ロビーにて二胡演奏とともに福井の星空をまとめたタイムラプス動画や、星空写真展の作品のスライドショーを上映した。			
中秋の名月	9月20日 (月祝)	自然保護センター 観察棟	23
中秋の名月にちなみ、普段から見慣れている月を肉眼、双眼鏡、天体望遠鏡で細かく観望する会を実施した。巨大望遠鏡では、月のつくりや特徴を解説しながらクレーター等をじっくり観察し、野外ではジャズの演奏と、星空の解説を併せて行った。			

◆天体観望会

	実施回数(回)	参加者数(人)
一般対象 週末天体観望会	25	441
一般対象 昼の天体観望会	47	233
団体対象 天体観望会	31	564
計	103	1,238

◆プラネタリウム

	実施回数(回)	参加者数(人)
一般対象 プラネタリウム(土・日曜日・祝日)	148	774
団体対象 プラネタリウム	51	963
計	199	1,737



写真左：天文教室「望遠鏡を作ってみよう」



写真右：特別天体観望会「中秋の名月」

(3) 館内・自然観察の森ガイド

- ・「四季の自然観察シリーズ」として、4月～6月、9月～10月の日曜日、祝日に一般来館者を対象に1日2回、自然保護センター館内および自然観察の森のガイドを行った。(実施：16回、参加者：99人)
- ・事前申し込みによる団体を対象に、センター周辺で「館内・自然観察の森ガイド」を実施した。(23団体、733人)

令和3年度館内・観察の森等解説ガイド実績（一般）

	四季の自然観察シリーズ				
月	5	6	9	10	計
回数(回)	3	4	4	5	16
参加者(人)	22	19	34	24	99

令和3年度自然観察の森解説ガイド（四季の自然観察）一覧

実施日	曜日	テーマ	講師
5/2	日	キビタキを探そう（中止）	酒井 敬治
5/3	月祝	スプリングエフェメラル（中止）	廣野 栄美
5/4	火祝	春のようちえんと楽校（中止）	大石橋 節子
5/5	水祝	春の森をもっと知れたら（中止）	井部 正興
5/9	日	春のきのこを探そう（中止）	小林 しのぶ
5/16	日	食べられる野草を探そう	松本 健一
5/23	日	気候療法で春の森を健康ウォーク	牧野 晃治
5/30	日	池ヶ原湿原でレンゲツツジの観察	矢尾 政士
6/6	日	いろいろな形の葉っぱを探してみよう	源野 みね子
6/13	日	初夏のトンボを探そう	伊藤 勝幸
6/20	日	コシアブラで遊ぼう	山田 儀一
6/27	日	池ヶ原湿原でミズチドリの観察	井部 正興
9/5	日	森でネイチャーゲームを楽しもう（中止）	吉田 真美子
9/12	日	森探検 ～夏の名残と一足早い秋を探して～（中止）	山岸 登美子
9/19	日	種の大作戦	山田 洋子
9/20	月祝	秋の鳴く虫を見つけよう	井草 貴男
9/23	木祝	色々なトンボをつかまえてみよう	矢村 健一
9/26	日	秋の野鳥レストラン	松村 俊幸
10/3	日	渡り鳥をさがそう	酒井 敬治
10/10	日	秋の木の実をさがそう	櫻井 知栄子
10/17	日	植物の冬支度をさがそう	廣野 栄美
10/24	日	今年の森の見納め	井部 正興
10/31	日	いろいろな落ち葉を見てみよう	田淵 千鶴子

(4) 特別企画など

夏休みなどの連休等に特別企画イベントを企画したが、雨天中止となった。
＜令和3年度連休等での特別企画の実施状況＞

特別企画の内容	実施月日	場所	参加者
光に集まる虫を観察しよう (ライトトラップ)	8月9日・10日	学習広場	中止

(5) 生き物百葉箱事業

小学校などの子どもを含む団体が自主的に行う身近な自然環境の観察や調査を支援し、継続的な調査や生態系の保全・再生の必要性を学ぶことを目的とした事業で、継続的な自然観察をする団体の登録、講師（環境アドバイザー）の派遣を行った。

- ・登録人数（団体数） 6,133 人（194 団体）
- ・環境アドバイザーの派遣回数 4 回（派遣人数 年間 4 人、受講者人数 年間 56 人）

（登録グループ別内訳）

グループ名	登録数	登録人数
学 校	49	2,226
団 体	63	2,811
放課後クラブ	8	248
公民館	14	518
子供会	2	69
一 般	57	206
エンゼルランド	1	55
合 計	194	6,133

(6) インターネットによる自然情報の発信

①ホームページによる情報発信

更新：年 47 回、年間アクセス件数：52,233 件

②フェイスブックページによる情報発信

更新：年 52 回、合計リーチ数：24,357 件

③メールマガジン「みみずく通信」による情報発信

- ・購読者の増加を図るため、携帯電話用のメールマガジンを PC 版と併せて配信
- ・PC 版「みみずく通信」 配信回数：年間 21 回、累計 423 号（2006 年 1 月より）
配信人数：671 人
- ・携帯版「みみずく通信」 配信回数：年間 21 回、累計 360 号（2010 年 11 月より）
配信人数：151 人

(7) 広報誌の発行

自然保護センターの広報誌として『自然保護センターニュース』を年間 4 号発行した。また、福井県自然保護関係機関の行事案内として、ナチュラリスト 2022 年度行事案内号を発行した。

○自然保護センターニュース

発行年月日	巻 号	季節の自然情報
令和 3 年 3 月 25 日	第 1 号	自然観察の森で見られる春の花々
令和 3 年 7 月 30 日	第 2 号	自然観察の森で見られる夏の昆虫たち
令和 3 年 11 月 1 日	第 3 号	自然観察の森で見られる紅葉する樹木
令和 4 年 2 月 1 日	第 4 号	野鳥レストランを訪れる鳥たち

○ナチュラリスト

発行年月日	巻 号	内 容
令和 4 年 3 月 16 日	2022年度 行事案内号	ふくいSATOYAMA学級 2022行事案内

(8) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣の救護は、社団法人福井県獣医師会への救護委託および傷病鳥獣保護飼養ボランティア制度の活用によって実施した。生物多様性の考え方および社会情勢を踏まえ、救護の対象を希少種や傷病の発生原因が人的な場合などに限定することを基本に対応した。

令和 3 年度の傷病鳥獣の救護、治療件数は全体で 58 件、59 個体であった。このうち、その内訳は鳥類 50 件 51 羽 (86.4%)、哺乳類 8 件 8 頭 (13.6%) であった。鳥類ではツバメ 12 羽 (23.5%) スズメ 10 羽 (19.6%)、カルガモ 3 羽 (5.9%) が保護された。哺乳類ではタヌキ 5 頭、ホンドモモンガ 2 頭が保護された。

自然保護センターの救護個体の放野率 (放野個体数 / 放野個体数 + 死亡・安楽殺個体数) は、57.6% であった。

① 傷病鳥獣の保護飼養数 (自然保護センター取扱い) 過去 10 年間のみ詳細を掲載 (件・個体数)

年度 分類		H2~ 23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計
鳥 類	件 数	1,308	96	75	75	81	79	81	62	35	23	22	1,937
	個体数	1,923	121	116	96	127	95	109	87	35	24	23	2,756
哺乳類	件 数	246	9	6	9	6	8	13	6	1	0	3	307
	個体数	288	9	7	9	7	11	13	8	1	0	3	356
計	件 数	1,554	105	81	84	87	87	94	68	36	23	25	2,244
	個体数	2,211	130	123	105	134	106	122	95	36	24	26	3,112

※ 福井県獣医師会による治療後、自然保護センターが扱った個体を含む。

② 傷病鳥獣の治療数 (福井県獣医師会取扱い) 過去 10 年間のみ詳細を掲載 (件・個体数)

年度 分類		H2~ 23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	累計
鳥 類	件 数	4,617	260	228	227	232	209	249	103	69	44	30	6,268
	個体数	4,711	270	241	234	240	216	264	104	71	46	31	6,428
哺乳類	件 数	456	21	24	22	18	22	18	7	3	5	5	601
	個体数	472	21	24	22	18	23	18	7	3	5	5	618
計	件 数	5,073	281	252	249	250	231	267	110	72	49	35	6,869
	個体数	5,183	291	265	256	258	239	282	111	74	51	36	7,046

※ 自然保護センターから治療のために委嘱獣医師に搬送した個体数も含む。

③ 救護した鳥獣種とその結果

(個体数)

鳥獣名（鳥類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
カルガモ	1		2			3
モズ	2					2
カワラヒワ	2					2
トビ	1					1
メボソムシクイ	1					1
ドバト		1	1			2
ハクセキレイ		1				1
スズメ	3	7				10
オオミズナギドリ	1					1
メダイチドリ		1				1
アマサギ	1					1
アオサギ	1					1
フクロウ	3					3
ツバメ	6	6				12
セグロセキレイ		1				1
ダイサギ	1					1
イソヒヨドリ	1	1				2
ツミ		1				1
カンムリカイツブリ		1				1
コノハズク	1					1
カワセミ	1					1
コウノトリ		1				1
鳥類（種不明）	1					1
鳥 類 合 計	27	21	3	0	0	51
鳥獣名（哺乳類）	放野	死亡	安楽殺	飼養継続	その他	合計
タヌキ	5					5
モモンガ	2					2
カモシカ	1					1
哺 乳 類 合 計	8	0	0	0	0	8
総 合 計	35	21	3	0	0	59

(9) 自然に関する相談、対応

県民や行政などからの自然に関する相談や専門的な質問に回答した。

令和3年度の方分野別、内容別の相談件数

分 野 別	件数
哺 乳 類	51
鳥 類	268
その他脊椎動物	18
無 脊 椎 動 物	21
植 物	22
地 形・地 質	1
天 体・天 文	0
そ の 他	8
計	389

内 容 別	件数
傷 病 鳥 獣	114
自 然 一 般	220
自 然 学 習	3
マスコミからの問い合わせ	27
行政からの問い合わせ	19
そ の 他	6
計	389

相談の中には生物の県内分布状況に関する情報提供等も含まれており、特に重要と考えられるものについては下記の表に概要を示す。

種 名	個体数	確認方法 ※1	記録年月日 ※2	記録場所 ※3	関連する文献記録
ヌートリア	—	情報	令和3年5月4日	小浜市	
ナゴヤダルマガエル	1	写真	令和3年6月10日	美浜町	福井新聞6月12日
トワダオオカ	1	写真	令和3年6月11日	敦賀市疋田	
タイワンタケクマバチ	—	情報	令和3年10月12日	勝山市	
ヒメビシ	—	写真	令和3年10月14日	福井市安居	
シタベニハゴロモ	1	写真	令和3年10月26日	敦賀市大比田	
シタベニハゴロモ	1	写真	令和3年10月29日	大野市松丸	
イヌワシ	—	写真	令和3年11月19日	—	
オオタカ	1	死体	令和3年12月3日	福井市	
オオハクチョウ	1	写真	令和4年1月5日	おおい町	
クマタカ	1	写真	令和4年1月21日	おおい町	

※1 センター職員が確認した方法

※2 相談者が目撃・撮影等した年月日

※3 相談者が目撃・撮影等した場所

(10) 重要里地里山保全地区、生き物共生ホットエリア（重点活動地域）への支援事業

県は里地里山の絶滅危惧種が集中して分布している地域として、平成16年度に「福井県重要里地里山」30箇所を指定した。これらの地域において生物多様性の保全と活用を図るため、地域住民や県、市町、専門家等が連携して各地域の里地里山を計画的に保全する活動を支援してきた。

特に希少野生生物が分布する「白山・坂口」、「三方五湖周辺」、「中池見・池河内湿原」、「東尋坊・北潟湖」、「平泉寺・奥越高原」の県内5地域を「生き物共生ホットエリア（重点活動地域）」として選定し、重点的に自然再生活動を推進している。

令和3年度には、あわら市北潟地域（北潟地区）、坂井市陣ヶ岡丘陵地域（安島地区）、勝山市北谷町（小原地区）、六呂師高原、大野市阿難祖の5地域において団体等の活動支援を実施した。

①各支援地域における事業概要

ホットエリア	地域名	活動団体	主な事業内容	保全対象種
東尋坊・北潟湖地域	あわら市 北潟湖周辺	北潟湖自然再生協議会	①ため池の希少水生昆虫の保全と再生 ・ 侵略的外来種（ウシガエル・アメリカザリガニ等）の駆除 ②湿地性鳥類の生息状況調査 ・ カスミ網を使った標識調査（許可保有者により実施） ・ センサーカメラによる潜行性鳥類の生息状況調査 ・ 鳥類の生息に影響を与える特定外来生物アライグマのモニタリング ③ 湿生植物の保全 ・ 特定外来生物（オオキンケイギク）の駆除	オグマサナエ、トラフトンボ、アオヤンマ、ネアカヨシヤンマ、チョウトンボ、ミヤケミズムシ、マルケシゲンゴロウ、ノジコ、ヒクイナ、コウホネ等
	坂井市 陣ヶ岡丘陵地域周辺	陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会	・ 環境教育の実施（雄島小学校） ・ 監視カメラのメンテナンス ・ 侵略的外来種（アメリカザリガニ）の駆除	ゲンゴロウ類、ネアカヨシヤンマ、オオコオイムシ等
平泉寺・奥越高原地域	勝山市 北谷町	小原 ECO プロジェクト	・ ミチノクフクジュソウの観察会と保全活動（村岡小学校）	ミチノクフクジュソウ
	六呂師高原 周辺	池ヶ原湿原保全・活用協議会	①池ヶ原湿原保全・活用協議会の運営 ・ 保全・活用策の協議と合意形成 ・ 湿原植物を保全する外来種駆除活動 ②利活用の推進 ・ 環境教育の実施（平泉寺小学校） ・ 自然観察会 2回 ③ 湿原植物を保全する植生管理 ・ ヨシの刈り取り ・ ハンノキ等低木類の選択的除去 ・ 特定外来生物（オオハングンソウ）の駆除 ・ 土のう堰の設置 ・ 希少な湿原植物の生育モニタリング	ミズチドリ、トキソウ、ノカンゾウ、カキラン等
	大野市 阿難祖	大野市	・ 保全活動（草刈り、落葉枝の除去）	フクジュソウ

②講師派遣の概要

下記のとおり講師派遣を、計 11 回（3 地域 349 人参加）実施した。

重要里地里山 地域名	活動名・演題	場 所	実施年月日	主催者	参加 人員
勝山市北谷町	ミチノクフクジュソウ 保全活動	勝山市北谷町小原地区	令和 3 年 4 月 13 日	小原 ECO プロ ジェクト	30
		〃	令和 3 年 7 月 16 日		30
		勝山市立村岡小学校	令和 3 年 10 月 6 日		31
		勝山市北谷町小原地区	令和 3 年 10 月 7 日		31
勝山市平泉寺町	池ヶ原湿原自然観察会	勝山市池ヶ原地区	令和 3 年 4 月 6 日	勝山市立平泉寺 小学校	5
		勝山市立平泉寺小学校	令和 3 年 4 月 21 日		30
		勝山市池ヶ原地区	令和 3 年 7 月 14 日		46
		〃	令和 3 年 10 月 8 日		29
坂井市立雄島小 学校	陣ヶ岡丘陵地自然観察 会	〃	令和 3 年 10 月 29 日	天池を守る会	45
		坂井市立雄島小学校	令和 3 年 6 月 17 日		31
		陣ヶ岡丘陵地	令和 3 年 6 月 23 日		41

③六呂師高原湿原植生管理支援事業

池ヶ原・妻平湿原では、平成 21 年度から 24 年度の緊急雇用創出事業により湿原の植生管理を実施し、希少かつ独自の植生やトンボ類等の多様性を再生させた。その後もこれらの景観や生物多様性を今後も維持していくため、再び成長するヨシやハンノキ等の植生管理を継続して実施している

＜池ヶ原湿原＞

・目的

○湿原本来の植生を保全するため、植生保全作業の実施とあわせて、外来植物の除去および園地の維持管理を行う。

・内容

○池ヶ原湿原は、ミズチドリやオオミズゴケなど多様な湿性植物が生育する嶺北最大規模の湿原である。しかし、平成 20 年度以前はヨシ・低木・ハンノキが繁茂し、丈の低い湿性植物の生育を阻害していた。また、湿原内に特定外来生物オオハングンソウが侵入し、かつ管理頻度の低下に伴って園地のヤブ化が進んでいたが、平成 21 ～ 24 年度に緊急雇用創出事業による植生管理（ハンノキ、低木の除去及びヨシの刈り取り）、地下水位の上昇・水質の維持、オオハングンソウの除去等の作業の実施により湿原植生が回復した。

○平成 25 年度、「池ヶ原湿原連絡協議会」を設立し、自然保護センターを事務局とする、県、市、地域住民・企業、専門家等の多様な主体の連携による湿原保全の体制を作り保全活動を実施している。なお、会の目的を明確にするため、平成 29 年 4 月に、名称を「池ヶ原湿原保全・活用協議会」に改めた。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会構成員

区 分	氏名又は団体名
専門家	北川 博正（会長）
地域住民	池ヶ原湿原を守る会
企業	勝山ロータリークラブ マイラン E P D 合同会社勝山事業所 ケイテー株式会社 山田兄弟製紙（株）
教育機関	勝山市立平泉寺小学校
自然関係団体	ノーム自然環境教育事務所 福井県自然観察指導員の会（副会長）
行政機関	勝山市環境政策課 福井県奥越高原牧場 福井県奥越高原青少年自然の家 福井県自然環境課 福井県自然保護センター（事務局）

令和 3 年度は、池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動として、協議会の開催、夏のオオハングンソウ駆除・ハンノキ巻枯らし活動、秋のヨシ刈り活動、平泉寺小学校の環境教育の支援を行った。協議会を书面決議にする、保全活動時はお互いに距離を取るなど、新型コロナウイルス感染症対策をとりつつ実施した。

また、湿原内の植生保全のため、ヨシの刈り取り、ハンノキ等低木の伐採・環状剥皮、ハンノキ高木の伐採、オオハングンソウの除去を委託により実施した。

○池ヶ原湿原保全・活用協議会の活動状況

実施日	場所	イベント名	概要	参加人員
令和3年5月24日	奥越高原牧場	協議会 (第1回目)	R3年度活動計画	15
6月20日	池ヶ原湿原	外来種駆除	湿原内外のオオハンゴンソウの除去	43
10月16日	池ヶ原湿原	ヨシ刈り活動	湿原内のヨシの刈取り ハンノキの環状剥皮	35
令和4年3月4日	書面形式で実施	協議会 (第2回目)	R3年度事業実施結果報告 R4年度事業計画案	—

○植生保全のための委託作業状況

作業内容	作業時期	作業人員
ハンノキ低木の除去 完全除去：抜取り（手動ウィンチ法）	令和3年6月1、8、9日	6.0人・日 (119本)
ハンノキ低木の除去 枯死：環状剥皮（ピーラー法）	令和3年6月15日	2.0人・日 (200本)
ハンノキ等低木類の選択的除去	令和3年5月26日、6月15、16、17、 20、21、23日、7月1、2、26日	13.0人・日 (約7,300㎡)
ヨシ刈り後低木除去	令和3年11月11、18日	6.0人・日 (約2,020㎡)
オオハンゴンソウ（特定外来生物）の 物理的防除：抜取り	令和3年6月1、2、5、6、7日	7.0人・日 (約990㎡)
オオハンゴンソウ（特定外来生物）の 化学的防除：薬剤塗布	令和3年5月26、31日	9.5人・日 (約750㎡)
オオハンゴンソウ（特定外来生物）の 刈払い試験：試験区の設定・刈払い	令和3年6月9、15日	1.0人・日 (200㎡)
土のう堰の設置	令和3年6月9、23日、7月26日	0.5人・日 (1か所)
計		45人・日

○自然観察会の開催

池ヶ原湿原の動植物の観察会を5月30日（日）と6月27日（日）に開催したところ、11名の参加があった。

<妻平湿原>

・目的

○妻平湿原の植生および水生昆虫の生息環境を保全するため、ヨシおよびハンノキを管理し、光環境を改善するとともに水深を確保する。

・内容

○妻平湿原はミツガシワの県内最大級の生育地であり、他にも多様な湿性植物が生育し、かつて水田であった部分（約1,800㎡）と、以前から湿原であった部分から成り立っている。水田であった部分は、上流から土砂や栄養分の流れ込みが増加し、ヨシ、マコモ等の高茎草本が繁茂しやすい状態になっている。その結果、オオルリボシヤンマ等のトンボ類の生息に好適な開放水面の面積が減少し、観察できなくなっている。一方、六呂師高原のハッチョウトンボは絶滅したと推定されていたが、2010年代に池ヶ原湿原、自然観察の森のトンボ池および妻平湿原で確認されるようになった。

- そこで、オオルリボシヤンマ等およびハッチョウトンボが観察できる湿地を目指した植生管理を実施してきた。平成 27 年度から平成 30 年度に職員作業およびインターシップ研修でヨシの抜き取りやマコモの刈り取りを実施した。令和 2 年は委託によりヨシの刈り取りを実施した。
- 令和 3 年度は福井県自然観察指導員の会に委託し、ヨシの刈り取り、ハンノキの伐採を実施した。
- 今後も草丈の高いヨシ等の除去作業を実施するとともに、トンボ類をはじめとする生物相モニタリングを実施していく必要がある。

(11) 侵略的な外来種防除対策

①特定外来生物ウチダザリガニ駆除活動

ウチダザリガニの九頭竜湖における分布を調査した。調査は 9 月および 10 月に九頭竜湖内外の 8 地点にカゴ罟を仕掛けたところ、ウチダザリガニは九頭竜湖内 4 地点で捕獲され、昨年捕獲されなかった野尻橋でも捕獲された。また九頭竜湖外では捕獲されなかった。本調査結果は Ciconia25 へ寄稿した。

また、例年捕獲・駆除を実施していた面谷橋における令和 3 年 9 月 21・22 日の捕獲効率（＝捕獲個体数／（わなの設置数・わなの稼働日数））は 14.33、令和 3 年 10 月 19～21 日の捕獲効率は 1.00 であった。

②六呂師高原における特定外来生物オオハンゴンソウの分布調査結果

六呂師高原において特定外来生物オオハンゴンソウの分布を調べた。令和 3 年 7 月に六呂師高原を自動車で移動し、オオハンゴンソウを確認した地点の位置情報と生育地の規模を記録した。六呂師高原内でオオハンゴンソウを 32 地点で確認した。オオハンゴンソウの大規模な生育地は人間活動のある農耕地の近くにあった。オオハンゴンソウが河川の上流から下流に分布拡大したと推測される分布パターンがあった。本調査結果は Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）Vol. 25 へ寄稿した。

3 研修養成事業

自然保護に関心を持つ県民を養成するために、天文リーダー養成研修や、新たに星空案内人（星のソムリエ®）養成講座を実施したほか、インターンシップをはじめとする各種研修生の受け入れを行った

（１）天文リーダー養成研修

天文分野に興味関心のある大学生に向けて、福井県の星空に関する魅力を発信し、星空の保護や天文分野の発展に貢献できる人材を育成するため、福井工業大学の天文観測同好会会員に対し、天文リーダー養成研修を実施した。

	実施日	研修内容	参加人数	会 場
第１回	５月19日	福井県の星空の魅力について 等	9	福井 工業大学
第２回	６月16日	自然保護センターの天文事業について 等	2	
	６月18日	同上	7	
第３回	７月16日	宇宙の始まり、いろいろな銀河 等	3	
第４回	９月29日	自然保護センターにおいて実習	5	自然保護 センター

（２）星空案内人（星のソムリエ®）養成講座

福井県自然保護センターは令和３年度に星空案内認定制度の実施団体となったことから、新たに星空案内人（星のソムリエ®）養成講座を実施し、年度内に16名の準星空案内人、７名の星空案内人を認定した（受講者22名）。

実施日	科目名	会場
10月10日	さあ、はじめよう	多田記念大野有終会館（結とびあ）
	望遠鏡のしくみ	
10月17日	宇宙はどんな世界	
	星空の文化に親しむ	
11月７日	星座をみつけよう	自然保護センター観察棟
11月14日	望遠鏡を使ってみよう①	
11月16日	望遠鏡を使ってみよう②	
11月20日	星空案内の実際	
11月28日	準案内人 認定式	自然保護センター本館
３月６日	実技試験	自然保護センター観察棟
３月27日	案内人 認定式	自然保護センター本館

(3) 研修生受け入れ

福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会の要請を受け大学生のインターンシップ研修として4名を受け入れた。また、令和3年度中堅教諭等資質向上研修として2名受け入れた。

研修名	依頼元	人数	所 属	研修期間
福井県インターンシップ	福井県インターンシップ推進協議会・経営者協会	1	福井大学	8月7日～8月11日
		1	福井県立大学	
		1	福井工業大学	
		1	県立広島大学	
令和3年度中堅教諭等資質向上研修	大野市尚徳中学校	1	大野市尚徳中学校	8月11日・28日
	福井県立奥越特別支援学校	1	福井県立奥越特別支援学校	

4 資料収集事業

各分野の標本資料や視聴覚資料、自然に関する文献等の収集や保管を行った。

(1) 標本資料

標本資料数（点）

取得		分類	哺乳類	鳥 類	魚・両生 ・爬虫類	昆虫類	無脊椎 動 物	植 物 菌 類	岩石・鉱物 ・古生物	天 文	その他
収 集	3年度		0	9	1	6	0	0	0	0	0
	累 計		81	432	97	3,226	48	1,623	131	0	2
購 入	3年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計		13	31	14	11	0	614	350	9	0
寄贈・ 寄託	3年度		0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計		26	161	1	1,760	22	14,117	58	0	33
3年度計 累 計			0	9	1	6	0	0	0	0	0
			120	624	112	4,997	70	16,354	539	9	35

(2) 視聴覚資料

視聴覚資料数（件）

取得		分類		脊椎動物		昆 虫		無脊椎動物		植 物		地形・地質		天 文		その他	
		写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像	写真	映像
収 集	3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	1,843	13	1,702	4	25	0	3,537	0	1,725	4	855	2	514	42		
購 入	3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	累 計	0	67	0	30	0	6	0	18	1	34	12	15	8	31		
寄 贈	3年度	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146	0	0
	累 計	119	25	547	4	0	1	13	6	47	25	211	86	147	114		
3年度計 累 計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146	0	0
		1,962	105	2,249	38	25	7	3,550	24	1,773	63	1,078	103	669	187		

(3) 文献資料

文献資料数（冊）

取 得		種 類	単行本	雑 誌	報告書	その他
購 入	3年度		1	34	0	0
	累 計		1,407	159	0	0
交換・配付 (その他)	3年度		0	11	104	499
	累 計		0	703	4,412	8,735
寄 贈	3年度		20	79	0	0
	累 計		2,022	141	424	779
3年度計 累 計			21	124	104	499
			3,429	1,003	4,836	9,514

(4) 天文写真資料

好天時や天文現象にあわせて、観察棟天体観測室や野外にて、デジタルカメラによる撮影を行った。撮影した映像はホームページや提供資料に活用し、NHK などメディア等にも話題提供した。

5 調査研究事業

福井県内の自然環境を把握し、自然保護の基礎資料とするために、各種調査研究を実施した。

(1) 渡り鳥保全調査（鳥類生息状況調査）

趣 旨： 福井県内の鳥類の繁殖分布とその変化を明らかにし、鳥類保全のための基礎資料とすることを目的とし、鳥獣保護区およびその周辺における鳥類の種類、個体数、繁殖の可能性について調査する。

概 要： 福井県内の10か所を、調査地点ごとに2～3人の調査員で実施し、調査実施マニュアルに従い、5月～6月の概ね午前5時～9時頃および9～10月の午前6時～10時頃に、各コース2回ずつ現地調査を実施した。調査は日本野鳥の会福井県の会員に依頼し実施した。

結 果： 10か所の調査で合計76種を確認した。

成 果： 調査結果をとりまとめ、Ciconia Vol.25に掲載した。また、令和4年度鳥獣保護区設定期間更新のための基礎資料とした。

(2) カモ科鳥類生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 鳥類保護行政の基礎資料とすることを目的として、福井県内に渡来するカモ科鳥類の生息状況を把握する。

概 要： この調査は、国（昭和44年度から林野庁、昭和48年度から環境庁、平成12年度から環境省）の依頼により、毎年1月15日前後に、全国一斉に行われているものである。福井県においては昭和52年度以降、県が日本野鳥の会福井県に委託して調査を実施している。令和3年度の調査は、福井県におけるガン・カモ・ハクチョウ類の主要な渡来地となっている17か所の湖沼、河川、内湾、平野部において調査を行った。令和3年度は、坂井平野のガン類調査が1月9日に、他地点の調査が1月10日に実施された。調査地の全域をカバーするように観察地点を設定した上で、各調査地で3～17名の調査員が双眼鏡および望遠鏡により種を判定し、観察されたガン・カモ・ハクチョウ類の種とその個体数を計数器により記録した。

結 果： 計17か所の調査地で、計22種25,455羽のガン・カモ・ハクチョウ類が記録された。昨年度と比較して種数は2種増加し、個体数は615羽増加した。今回の調査で、ガン類が1種199羽、ハクチョウ類が3種128羽、カモ類が18種25,128羽記録された。優占度の高かった種は、マガモ56.3%、コガモ11.4%、カルガモ10.4%、ヒドリガモ6.4%であり、上記4種で全体の84.5%を占めている。個体数の増加が大きかった種は、マガモ1,488羽増、ヒドリガモ834羽増、カルガモ779羽増、コガモ381羽増で、逆に減少が大きかった種は、トモエガモ1,452羽減、マガン933羽減、オナガガモ395羽減であった。

成 果： 調査結果は日本全国の結果と統合して集計するため、環境省生物多様性センターに報告した。また、調査結果を下記の報告書にとりまとめ、関係機関等に配布したほか、自然保護センターのホームページ上で公開した。

日本野鳥の会福井県（編）、2022、令和3（2021）年度カモ科鳥類生息調査報告書。福井県自然保護センター、大野。

(3) カワウ生息調査（鳥類生息調査事業）

趣 旨： 中部、近畿圏におけるカワウ広域保護管理指針策定の基礎資料とするため、福井県内におけるカワウの生息状況を把握する。

概 要： 近年、全国的に個体数が増加し、内水面漁業との間で軋轢が生じているカワウは、行動域が広く県境を越えて移動するため、その被害防止と保護の両立には広域的な保護管理が必要である。そこで、環境省主導のもと、中部近畿カワウ広域協議会が設立され、広域保護管理指針の策定を目指している。この協議会では、カワウの保護管理の基礎資料とするため、各府県が連携してカワウの生息状況を把握することとしており、本県においても日本野鳥の会福井県に委託し、カワウの営巣地・ねぐら調査を年3回実施してきた。令和3年度も7月、12月、3月において、これまでに判明してい

るカワウの営巣地・ねぐら 10 地点（現在利用が無い地点も含む）で、日没前後の入巣・就峙個体数の計数を行った。また、11 月～12 月には新規営巣地・ねぐらを発見することを目的として、主要な水系沿いでルートセンサスを実施した。さらに、西日本では、カワウの新たな営巣地やねぐらはサギ類の営巣地への侵入によって形成されることが多いため、主要なサギ類コロニー 10 地点についても、6 月に営巣種と個体数を調査した。

結 果： カワウの営巣確認数は、令和 3 年 7 月に 3 地点で計 40 巣、令和 4 年 3 月に 3 地点で計 20 巣の営巣が確認された。カワウの営巣地・ねぐら 10 地点における令和 3 年 7 月、12 月および令和 3 年 3 月の入巣・就峙個体数の合計は、それぞれ 438 羽、902 羽および 562 羽であった。

成 果： 広域的なカワウの生息状況把握に利用するため、調査結果を中部近畿カワウ広域協議会に報告した。

（４）ブナ科樹木の豊凶調査

趣 旨： クマ大量出沒の予測を含むツキノワグマ保護管理の基礎資料とするため、ブナ科樹木の豊凶を把握する。

概 要： クマの人里付近への出沒件数には年次変動があり、クマの秋期における主要な餌であるブナ科樹木の堅果類が凶作の年にクマの大量出沒が発生している。クマ大量出沒の早期予測を目的として、8 月中旬から 9 月上旬にかけて、県全域のブナ科樹木の着果状況を確認し、その豊凶を把握している。令和 3 年は 8 月 12 日～8 月 31 日に、ブナ、ミズナラ、コナラの着果状況を調査した。

結 果： 令和 3 年度における各樹種の県全体の作柄は、ブナは並作、ミズナラ・コナラは不作であった。ミズナラは令和 2 年度と変わらず結実不良であるものの、ブナで結実が良好な個体が一定割合あった。また、低標高域のコナラの作柄も例年程度であったことから、令和 3 年秋季は県全域でクマの大量出沒が発生する可能性は低いと予測した。

成 果： 本調査結果を令和 3 年 9 月 9 日に開催された「令和 3 年度ツキノワグマ出沒対策連絡会」において発表した。令和 3 年 9 月～12 月の福井県におけるツキノワグマ出沒件数は 129 件で、大量出沒年であった令和 2 年 9 月～12 月の 801 件を大きく下回った。令和 3 年度のツキノワグマの大量出沒の発生予測は妥当であった。

（５）ヤシャゲンゴロウの生息域外保全事業

趣 旨： 国内希少野生動植物種に指定されているヤシャゲンゴロウの生息域外保全を行うために、人工飼育の方法を確立する。

概 要： 飼育室において成虫の交尾、産卵、孵化、上陸の一連の飼育を行い、飼育方法を研究した。

結 果： 令和 3 年度は前年度からの成虫を引き続き飼育したほか、6 月 22 日に野生個体 2 ペアを受け入れた。親成虫からの採卵を試みたところ、8 ペアから合計 1,615 個の卵を得た。このうち、令和 3 年度に導入した野生個体 2 ♀から 1,076 個、残りの 6 ♀から 539 個の卵を得た。産卵は 2 ヶ月の間に複数回に分けて行われた。この得られた卵 1,615 個からは、1,496 個体の幼虫が孵化した（孵化率 92.6%）。幼虫の餌としてボウフラを与え、ボウフラが不足した場合には冷凍アカムシを与えた。最終的に 133 個体の新成虫が得られた。上記の結果等については令和 3 年 11 月 12 日に昭和会館で開催されたヤシャゲンゴロウ生息域外保全検討会で報告し、国や関係団体、専門家、他機関との情報共有を図った。

（６）Ciconia（福井県自然保護センター研究報告）の発行

趣 旨： センターの調査事業および福井県内の自然に関する調査研究報告を編集・発行する。

概 要： Ciconia Vol.25 掲載論文の一覧

- ・日本野鳥の会福井県サギ類調査グループ. 福井県におけるサギ類のコロニーの分布と種構成：2019 年および 2020 年のサギ類コロニー調査の結果。
- ・福井県自然保護センター. 2021 年度渡り鳥保全調査事業報告：福井県指定鳥獣保護区および鳥獣保護区周辺の鳥類相。

- ・香川正行・北川博正・田淵千鶴子・鈴木聡. 福井県勝山市野向町横倉における自動撮影カメラによる哺乳類相調査.
- ・福井県自然保護センター. 福井県自然保護センター自然観察の森で自動撮影カメラにより撮影された哺乳類 (2021 年).
- ・柴田智広. 三ノ峰周辺のアザミウマ類.
- ・笹川幸治・井上重紀. 福井県産ゴミムシ類 3 種の追加記録.
- ・梅村信哉. 大野市剣ヶ岩におけるオオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis の採集記録.
- ・大宮正太郎. 大野市南六呂師におけるムネアカセンチコガネの記録.
- ・梅村信哉. 三ノ峰におけるハムシ類群集の多様性と季節変動.
- ・梅村信哉・柴田智広. 大野市上小池におけるウスリーマルハナバチ *Bombus ussurensis* Radoszkowski の採集記録.
- ・梅村信哉. 大野市三ノ峰におけるモンクロキイロナミシヤク *Stamnodes danilovi* Erschoff の採集記録.
- ・梅村信哉・伊藤勝幸. 大野市赤兎山におけるエルタテハ *Nymphalis l-album* (Esper) の採集記録.
- ・福井県自然保護センター・保科英人. 2021 年の九頭竜湖およびその周辺における特定外来生物ウチダザリガニの分布調査結果.
- ・福井県自然保護センター. 2020 年および 2021 年の福井県におけるブナ科樹木 3 種の着果状況.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で確認されたサギソウ (*Pecteilis radiata* (Thunb.) Raf.) の生育地と個体数 (2017-2021) の記録.
- ・榎本博之. 福井県で初めて発見されたタカネトンボ (*Platanthera chorisiana* (Cham.) Rchb.) の生育地と個体数 (2015-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で確認されたオオヤマサギソウ (*Platanthera sachalinensis* F.Schmidt) の生育地と個体数 (2016-2021) 並びにオオバナオオヤマサギソウ (*Platanthera hondoensis* (Ohwi) K.Inoue) の個体数 (2018-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で初めて発見されたガッサンチドリ (*Platanthera takedae* Makino subsp. *uzenensis* (Ohwi) K.Inoue) の生育地と個体数 (2015-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で確認されたタカネサギソウ (*Platanthera mandarinorum* Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue var. *maximowicziana*) の生育地と個体数 (2014-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹・馬田英典. 福井県で確認されたニョホウチドリ (*Ponerorchis joo-iokiana* (Makino) P.F.Hunt) の生育地と個体数 (2014-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で発見されたヤマトキシソウ (*Pogonia minor* (Makino) Makino) の生育地と個体数 (2020-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で初めて発見されたユウシュンラン (*Cephalanthera subaphylla* Miyabe et Kudô) の生育地と個体数 (2017-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で確認されたハクウンラン (*Kuhlhasseltia nakaiana* (F.Maek.) Ormerod) の生育地と個体数 (2015-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で発見されたアキタスズムシソウ (*Liparis longiracemosa* Tsutsumi, T. Yukawa et M. Kato, sp. nov.) の生育地と個体数 (2020-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹・馬田英典. 福井県で確認されたホザキイチヨウラン (*Malaxis monophyllos* (L.) Sw.) の生育地と個体数 (2015-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で確認されたコイチヨウラン (*Ephippianthus schmidtii* Rchb.f.) の生育地と個体数 (2015-2021) の記録.
- ・榎本博之・阪本英樹. 福井県で発見されたトケンラン (*Cremastra unguiculata* (Finet) Finet) の生育地と個体数 (2016-2021) の記録.
- ・福井県自然保護センター・水口亜樹・井ノ上リサ・村野綾香. 六呂師高原における特定外来生物オオハングンソウの分布調査結果.

6 そ の 他

(1) 福井県自然保護関係機関連絡会議の開催

福井県自然保護関係機関連絡会議は、福井県の自然環境や自然保護に関する調査研究を行っている機関相互の情報交換、共有化を促進し、ネットワークの強化を図るとともに、科学的情報に基づく自然保護の推進に役立てることを目的として設置した組織である。自然保護センター所長が議長となっており、下記の機関が加盟している。年に1回調査研究・活動事例発表会を開催している。

【加盟機関】越前町立福井総合植物園、福井市自然史博物館、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県自然保護センター、福井県里山里海湖研究所

令和3年度には、下記の事業を実施した。

・令和3年度 活動事例発表会の開催

日 時：令和4年2月23日（13:30～15:10）

会 場：福井県自然保護センターおよびオンライン

発表内容：

「自然保護センターの役割と収蔵資料紹介」（福井県自然保護センター）

「若狭湾・三方五湖の自然に親しむ体験学習！海浜自然センターの取り組みについて」（福井県海浜自然センター）

「早生樹生産技術の確立について」（福井県総合グリーンセンター）

「大野市三ノ峰における昆虫調査」（福井市自然史博物館）

「変形菌類スミホコリ科ブレフェルトホコリについて」（越前町立福井総合植物園プラントピア）

「歴史生態学の成果を社会実装して自然再生に活かす：三方五湖の事例」

（福井県里山里海湖研究所）

参加：19名

・福井県自然保護関係機関連絡会議 担当者会議

日 時：令和4年2月23日（15:30～16:30）

会 場：オンライン

参加者：構成機関より8名出席

・ナチュラリスト2022年度行事案内号において「ふくい SATOYAMA 学級2022 行事案内」を発行

(2) 大型野生動物の捕獲・放獣に関わる指導協力

自然保護センターでは市町等の要請があった際に、大型野生動物の麻酔銃による保定および放獣の指導を実施している。令和3年度は、1件出動した。

対応した大型野生動物個体の一覧

月日	市町	種名	成・幼の別	性別	麻酔処置
9月4日	鯖江市	カモシカ	成獣	オス	実施

(3) コウノトリの足環装着作業の協力

各市からの依頼に応じ、野外コウノトリのヒナの足環装着作業へ職員を派遣した。

月日	市町・場所	羽数	派遣人数	備考
5月13日	越前市・安養寺	2羽	2人	2羽のうち1羽は脚を負傷していたため、巣に戻さず、自然保護センターに収容した(のち、死亡)。
6月18日	小浜市・太良庄	3羽	1人	
6月22日	越前市・下中津原	3羽	2人	



写真：コウノトリの足環装着作業の協力

(4) 職員の派遣

他機関等からの要請に応じ、センターの担当職員を講師として派遣した。

講 師	活動名・演題	場 所	実施年月日	主 催 者
佐野沙樹	総合的生物多様性管理論 「子どもたちに伝えたい、 ふくい自然环境」	福井県立大学 あわらキャンパス	令和3年4月30日	福井県立大学
佐野沙樹	食農環境・文化概論 「福井県の自然環境」	福井県立大学 あわらキャンパス	令和3年5月11日	福井県立大学
佐野沙樹	食農環境実習・演習I 「特定外来生物オオキンケイギク の駆除活動、啓発チラシ作成」	福井県立大学 あわらキャンパス	令和3年5月13日	福井県立大学
山内良幸 佐野沙樹	オオキンケイギク駆除活動	蔵生地区共同墓地	令和3年5月30日	大野市蔵生地区
佐野沙樹	自然教室SDGs講座 「里に下りてきた熊はどうなるんだろう」	福井県立奥越高原 青少年自然の家	令和3年6月2日	永平寺町松岡中学校
大宮正太郎	自然教室SDGs講座 「奥越の山にすむ虫を知ろう」	福井県立奥越高原 青少年自然の家	令和3年6月2日	永平寺町松岡中学校
佐野沙樹	オオキンケイギク駆除活動	弁天緑地(勝山市)	令和3年6月11日	勝山市立成器南小学校
佐野沙樹	川の環境調査(事前授業)	勝山市立 成器西小学校	令和3年6月25日	勝山市立成器西小学校
佐野沙樹	クマの生態を知り、共生して いくためのヒントを学ぶ	勝山市立 北郷小学校	令和3年6月25日	勝山市立北郷小学校
佐野沙樹	陸域環境再生学 「自然再生における環境行政の 役割」	オンライン講義	令和3年6月29日	大阪府立大学
山岸登美子	星空特集対談	大野市役所 第1会議室	令和3年6月30日	大野市秘書広報室
佐野沙樹	川の生き物調査	勝山市浄土寺川	令和3年7月1日	勝山市立成器西小学校
山岸登美子	令和3年度キャンプカウンセ サーステップアップ研修	福井県立奥越高原 青少年自然の家	令和3年7月10日	福井県立奥越高原青少年 自然の家
佐野沙樹	小さな里山の「夏・探検隊」	勝山市小原地域	令和3年7月31日	小原ECOプロジェクト
佐野沙樹	みんなで守ろう赤兎山の生態系	赤兎山周辺	令和3年9月25日	小原ECOプロジェクト
佐野沙樹	周囲の獣たちの生態を知り 共生していくためのヒントを学ぶ	勝山市立 平泉寺小学校	令和3年10月5日	勝山市立平泉寺小学校
佐野沙樹	植物調べ	勝山市立 荒土小学校	令和3年10月15日	勝山市立荒土小学校
佐野沙樹	経ヶ岳紅葉登山 「経ヶ岳登山道に生息する 動植物について」	福井県立奥越高原 青少年自然の家	令和3年10月16日	福井県立奥越高原青少年 自然の家
佐野沙樹	ツキノワグマに関する講習会	敦賀市立 東浦小中学校	令和3年10月27日	敦賀市立東浦小中学校
大宮正太郎	福井市と大野市の自然	自然保護センター	令和3年10月27日	大野市陽明中学校

佐野沙樹	県立図書館ライブラリーステイ「自然観察会・植物調べ」	福井県立図書館	令和3年11月5日	福井県立図書館
佐野沙樹	クマの生態を知り、共生していくためのヒントを学ぶ	勝山市立三室小学校	令和3年11月9日	勝山市立三室小学校
大宮正太郎	環境学習会 ーヤシャゲンゴロウに関わる自然と歴史に学ぶ人の生き方ー	南越前町昭和会館 3階講堂・ 町内3小学校 (リモート接続)	令和4年2月15日	南越前町

(5) 委員の受託など

他機関等から委嘱された委員等への就任を受託した。

氏名	団体名称	事務局
大宮正太郎	北潟湖自然再生協議会	あわら市生活環境課
竹原秀夫	勝山市「熊」対策連絡協議会	勝山市農林政策課

(6) 事業協力を行った関係団体

以下の団体・機関等と連携・協力して各事業を実施した。

① 指導普及事業

ア 自然観察会など

福井県自然観察指導員の会、日本野鳥の会福井県、福井ライフ・アカデミー、福井大学理数系教員養成拠点構築事業

イ 自然愛護

福井県獣医師会

ウ 里地里山の保全、普及

安曇区自治会、天池を守る会、越前松島水族館、坂井市立雄島小学校、小原ECOプロジェクト、勝山市立村岡小学校、環境省白山保護官事務所、勝山市教育委員会史蹟整備課、福井県奥越農林総合事務所、平泉寺町まちづくり推進協議会、マイランEPD合同会社、ケイテー株式会社、勝山ロータリークラブ、ノーム自然環境教育事務所、福井県自然観察指導員の会、山田兄弟製紙株式会社、勝山市立平泉寺小学校、勝山市ジオパークまちづくり課、奥越高原青少年自然の家、福井県奥越高原牧場

エ 天体観望会など

オヤット天文クラブ、ハツ杉天体観測所、奥越星を見る会、奥越高原青少年自然の家、東山いこいの森キャンプ場

オ 職員派遣

小原ECOプロジェクト、陣ヶ岡丘陵地域生物多様性保全協議会、福井県奥越高原青少年自然の家、南越前町、敦賀市立東浦小中学校、勝山市立平泉寺小学校、勝山市立村岡小学校、勝山市立成器西小学校、勝山市立成器南小学校、勝山市立荒土小学校、勝山市立三室小学校、勝山市立北郷小学校、永平寺町松岡中学校、坂井市立雄島小学校、福井県立大学、大阪府立大学

② 研修養成事業

福井工業大学、福井県インターンシップ推進協議会、福井県経営者協会、福井県教育研究所

③ 調査研究事業

日本野鳥の会福井県、石川県白山自然保護センター、富山県農林水産総合技術センター、福井大学、福井県立大学

④ 福井県自然保護関係機関連絡会議事業

福井市自然史博物館、越前町立福井総合植物園、福井県総合グリーンセンター、福井県海浜自然センター、福井県里山里海湖研究所

Ⅲ

その他

1 1年のあゆみ

月日	内容
令和3年	
4月23日	～6月20日 自然観察の森の生きものたち展（自然保護センター）
5月13日	コウノトリ足環装着作業の協力（越前市）
5月19日	天文リーダー養成研修（福井市）
5月25日	池ヶ原湿原保全活用協議会第1回協議会（勝山市）
5月26日	特別天体観望会 皆既月食を見よう
5月28日	北潟湖自然再生協議会総会（書面）主催：北潟湖自然再生協議会
6月4日	自然保護センター運営会議（書面）
6月16日	天文リーダー養成研修（福井市）
6月18日	天文リーダー養成研修（福井市）
6月18日	コウノトリ足環装着作業の協力（小浜市）
6月20日	池ヶ原湿原保全活用協議会 ハンノキ・外来種駆除（勝山市）
6月22日	コウノトリ足環装着作業の協力（越前市）
7月3日	初夏の六呂師高原観察ウォーク～苔だけじゃないよ平泉寺～（勝山市）
7月7日	特別天体観望会 セタまつり（自然保護センター）
7月9日	～8月31日 ふくい星空写真展（自然保護センター）
7月17日	愛鳥教室 コウノトリ観察会（越前市）
7月16日	天文リーダー養成研修（福井市）
7月18日	天文教室 天体望遠鏡を作ってみよう（自然保護センター）
7月24日	夏休み標本教室 美しい植物標本を作ろう（自然保護センター）
7月30日	自然保護センターニュース発行
7月30日	北潟湖自然再生協議会 水と生きもの再生部会（あわら市）主催：北潟湖自然再生協議会
8月7日	～8月11日 福井県インターンシップ（自然保護センター）
9月10日	～11月14日 企画展「奥越高原県立自然公園と生きものたち」（自然保護センター）
9月20日	特別天体観望会 中秋の名月（自然保護センター）
9月25日	秋の六呂師観察ウォーク「秋のトンボと鳴く虫」（自然保護センター）
9月29日	天文リーダー養成研修（自然保護センター）
10月1日	天文教室 本格的な天体写真を撮ろう（自然保護センター）
10月10日	星空案内人（星のソムリエ®）養成講座 開講式（大野市）
10月16日	池ヶ原湿原保全活用協議会 ヨシ刈り（勝山市）
11月1日	自然保護センターニュース発行
11月15日	～19日 燻蒸作業のため閉館
11月	令和2年度年報発行
11月20日	～令和4年3月31日 ミニ展示「冬に見られるカモのなかまたち」（自然保護センター）
11月28日	星空案内人（星のソムリエ®）養成講座 準案内人認定式
12月18日	～令和4年3月31日 自然の中の「とら」（自然保護センター）
12月22日	～令和4年1月18日 白山国立公園パークボランティア写真展2021
令和4年	
1月5日	～2月27日 冬の野鳥レストラン（自然保護センター）
2月1日	自然保護センターニュース発行
2月23日	福井県自然保護関係機関連絡会議・活動事例発表会（自然保護センター）

2月25日 池ヶ原湿原保全活用協議会第2回協議会（書面）
3月12日 天文教室 星のある風景写真（星景写真）を撮ろう（第1回）（福井市）
3月16日 普及誌「ナチュラリスト」発行
3月23日 福井県自然保護センター研究報告「Ciconia」発行
3月25日 天文教室 星のある風景写真（星景写真）を撮ろう（第2回）（自然保護センター）
3月27日 星空案内人（星のソムリエ®）養成講座 案内人認定式

2 施設利用実績

① 利用実績表

ア 本館・野外（自然観察の森ガイド等）

(人)

区 分		団 体	一 般	合計人数
本館		55団体 1,724	11,826	13,550
内 訳	本館見学	32団体 991	11,727	12,718
	自然観察の森ガイド等	23団体 733	99	832

イ 観察棟（天体観望会およびプラネタリウム等）

(人)

区 分		団 体	一 般	合計人数
観 察 棟		51団体 1,527	1,596	3,123
内 訳	天体観望会	20団体 564	441	1,005
	プラネタリウム	31団体 963	817	1,780
	特別観望会・天文教室		105	105
	昼の天体観望会		233	233

② 利用実績表

ア 本館

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	1	33	0	0	33	0	0	0	0	0
5	1	27	0	27	0	0	0	0	0	0
6	3	83	0	76	0	0	7	0	0	0
7	4	92	0	74	18	0	0	0	0	0
8	3	164	0	164	0	0	0	0	0	0
9	4	114	11	23	55	0	0	0	0	25
10	13	418	0	119	186	0	0	0	89	24
11	1	17	17	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	24	0	24	0	0	0	0	0	0
2	1	19	0	19	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	32	991	28	526	292	0	7	0	89	49

イ 野外（観察の森ガイド等）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	27	0	27	0	0	0	0	0	0
6	2	146	0	44	0	0	102	0	0	0
7	5	175	0	75	0	0	0	0	100	0
8	1	25	0	25	0	0	0	0	0	0
9	2	30	11	19	0	0	0	0	0	0
10	5	168	0	112	56	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	25	0	25	0	0	0	0	0	0
1	3	82	58	24	0	0	0	0	0	0
2	3	55	14	41	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	23	733	83	392	56	0	102	0	100	0

ウ 天体観望会（夜・昼）

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	1	6	6	0	0	0	0	0	0	0
5	1	31	0	0	0	0	0	0	31	0
6	3	145	7	0	138	0	0	0	0	0
7	7	172	50	30	18	0	0	26	48	0
8	1	12	12	0	0	0	0	0	0	0
9	2	15	10	0	0	0	0	0	0	5
10	4	158	0	30	18	0	70	0	40	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	25	0	25	0	0	0	0	0	0
1	冬季休館									
2										
3										
計	20	564	85	85	174	0	70	26	119	5

エ プラネタリウム

月	団体数	人数	団 体 数 内 訳							
			公民館・児童館・ 公共団体など	幼稚園・ 保育園	小学校		中学校		高校	その他
					県内	県外	県内	県外		
4	2	39	6	0	33	0	0	0	0	0
5	1	31	0	0	0	0	0	0	31	0
6	4	206	0	19	187	0	0	0	0	0
7	7	172	50	30	18	0	0	26	48	0
8	3	63	12	51	0	0	0	0	0	0
9	4	89	10	0	74	0	0	0	0	5
10	9	338	0	49	104	0	97	0	88	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	1	25	0	25	0	0	0	0	0	0
1	冬季閉館									
2										
3										
計	31	963	78	174	416	0	97	26	167	5

3 運営会議

- ・福井県自然保護センターを効率的に運営するために、運営会議を設置した。

福井県自然保護センター運営会議委員 任期 令和3～4年度

	氏 名	勤 務 先 ・ 所 属 団 体	専門分野等
会 長	保科 英人	福井大学教育学部 教授	昆虫
副会長	多田 雅充	福井県自然観察指導員の会 会長	植物
委 員	林 広二郎	大野市地域経済部 観光交流課長	行政
委 員	小嶋 明男	日本野鳥の会福井県 代表	鳥類
委 員	山本 俊夫	奥越星を見る会 会長	天文
委 員	坂本 道子	ノーム（GNOMES）自然環境教育事務所 副代表	自然教育
委 員	加藤 智恵	大野市民生環境部 こども支援課長	幼児教育
委 員	松井 香織	勝山市健康福祉部福祉・児童課子育て相談室長	幼児教育
委 員	青木 知代	大野市阪谷小学校 校長	学校教育
委 員	道関美代子	勝山市立平泉寺小学校 校長	学校教育

※所属等は令和3年6月現在

4 関係条例・規則

○福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
平成二年三月二十七日
福井県条例第四号
改正 平成八年三月三十一日条例第一二号
平成十一年三月一六日条例第一四号
平成二六年三月二〇日条例第一号
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例
を公布する。

福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例

(設置)
第一条 自然保護思想の普及を図り、もって県民の文化の向上に寄与するため、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）を設置する。
(位置)
第二条 センターは、大野市に置く。
(業務)
第三条 センターは、次に掲げる業務を行う。
一 自然の観察、研究等のために必要な施設または設備の提供
二 自然の観察、研究等のために必要な助言または指導
三 自然に関する研修会、講習会等の開催
四 自然に関する資料の収集、保管および展示
五 自然に関する調査および研究
六 前各号に掲げるもののほか、センターの設置の目的にふさわしい業務
(職員)
第四条 センターに、所長その他必要な職員を置く。
(施設等の使用の承認)
第五条 センターの施設または設備を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。
(使用料)
第六条 センターの施設または設備を使用する者は、別表に掲げる使用料を納付しなければならない。
2 既に納付した使用料は、還付しない。ただし、知事が特に必要があると認めるときは、この限りでない。
(使用料の減免)
第七条 知事は、特に必要があると認めるときは、使用料の全部または一部を免除することができる。
(委任)
第八条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
附 則
この条例は、平成二年四月一日から施行する。
附 則（平成八年条例第一二号）
この条例は、平成八年四月一日から施行する。
附 則（平成十一年条例第一四号）
この条例は、平成十一年四月一日から施行する。
附 則（平成二六年条例第一号）抄
(施行期日)
1 この条例は、平成二十六年四月一日から施行する。
別表（第六条関係）
(平八条例一二・平一一条例一四・平二六条例一・一部改正)

一 施設

区 分	金 額		
	9時から 12時まで	12時から 17時まで	9時から 17時まで
レクチャーホール	2,780円	4,530円	7,300円
会 議 室	740円	1,340円	2,080円
工 作 室	1,440円	2,260円	3,700円

二 設備

区 分	金額1回（5時間以内）につき
ワイヤレスマイク	200円
カセットテープレコーダー	200円
スライド映写機	530円
十六ミリ映写機	2,880円
ビデオテープレコーダー	1,340円

○福井県自然保護センターの管理運営に関する規則
平成2年3月27日
福井県規則第4号
福井県自然保護センターの管理運営に関する規則を公布する。

福井県自然保護センターの管理運営に関する規則

(趣旨)
第一条 この規則は、福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例（平成二年福井県条例第四号。以下「条例」という。）第八条の規定に基づき、福井県自然保護センター（以下「センター」という。）の管理および運営に関し必要な事項を定めるものとする。
(開館時間および入館時間)
第二条 センターの本館の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。ただし、入館時間は、午後四時三十分までとする。
2 センターの観察棟の開館時間は、午前九時から午後九時三十分までとする。ただし日曜日の開館時間は、午前九時から午後五時までとする。
3 福井県自然保護センター所長（以下「センター所長」という。）は、必要があると認めるときは、前二項の開館時間および入館時間を変更することができる。
(休館日)
第三条 センターの休館日は、次に掲げる日とする。ただし、第一号または第二号に掲げる日が七月二十一日から八月三十一日までの日である場合には、休館日としないものとする。
一 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第百七十八号）第三条に規定する休日（以下「休日」という。）に該当する場合を除く。）
二 休日の翌日（土曜日、日曜日または休日に該当する場合を除く。）
三 十二月二十八日から翌年の一月四日までの日（前二号に該当する場合を除く。）
2 センター所長は、必要があると認めるときは、前項の休館日を変更することができる。
(平一三規則二九・平一五規則一四・一部改正)
(入館の拒否)
第四条 センター所長は、センターに入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当するときは、入館を拒否することができる。
一 他人に危害を加え、または迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
二 施設または展示品を損傷するおそれのあるとき。
三 前二号に掲げるもののほか、センターの管理上支障があると認められる行為をするおそれのあるとき。
(入館者の遵守事項)
第五条 センターに入館した者（以下「入館者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
一 展示品（特に指定した展示品を除く。）に触れないこと。
二 展示品の近くで、インキ、墨等を使用しないこと。
三 承認を受けないで展示品の構造、模写または撮影をしないこと。
四 所定の場所以外で喫煙または飲食をしないこと。

- 五 他人に危害を及ぼし、または迷惑となる行為をしないこと。
- 六 その他係員の指示に従うこと。
- 2 センター所長は、入館者が前項の規定に違反したときは、その者に対して退館を命じ、または必要な措置をとることができる。
- (施設等の使用の承認)
- 第六条 条例第五条の規定により、センターの施設または設備の使用の承認を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用承認申請書（様式第一号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 2 センター所長は、前項の申請に対し使用を承認したときは、福井県自然保護センター使用承認書（様式第二号）を交付する。
- (使用者の遵守事項)
- 第七条 センターの施設または設備を使用する者（以下「使用者」という。）は、次に掲げる事項を守らなければならない。
- 一 承認を受けた使用内容を変更しないこと。
 - 二 センターの施設または設備をき損し、または汚損しないこと。
 - 三 使用の承認を受けた施設もしくは設備を転貸し、または当該承認に基づく権利を譲渡しないこと。
 - 四 館内の秩序または風俗を乱す行為をしないこと。
 - 五 承認を受けずに作品、物品等の販売、寄附金の募集、立看板の掲示その他これらに類する行為をしないこと。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、センターの管理上支障がある行為をしないこと。
- 2 センター所長は、使用者が前項の規定に違反したときは、センターの使用の承認を取り消すことができる。
- 3 使用者は、センターの施設または設備の使用を終了したときは、原状に回復しなければならない。
- (使用料の還付)
- 第八条 条例第六条第二項ただし書の規定により、次の各号のいずれかに該当する場合には、使用料を還付することができる。
- 一 災害その他不可抗力により、施設または設備の使用ができなくなったとき。
 - 二 その他センター所長がやむを得ない事由があると認めるとき。
- 2 使用料の還付を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料還付申請書（様式第三号）に領収書または福井県自然保護センター使用承認書を添えてセンター所長に提出しなければならない。
- (使用料の減免)
- 第九条 条例第七条の規定により、使用料を減免することができる場合およびその減免の額は、次に掲げるとおりとする。
- 一 県、県内の市町または県内の小学校、中学校、高等学校もしくは特別支援学校が主催する県民のための自然教育、自然保護等に関する事業に使用するとき 使用料に相当する額
 - 二 その他センター所長が特に必要があると認めるとき センター所長が必要と認める額
- 2 前項の規定により使用料の減免を受けようとする者は、福井県自然保護センター使用料減免申請書（様式第四号）をセンター所長に提出しなければならない。
- 3 センター所長は、前項の申請に対し減免を承認したときは、福井県自然保護センター使用料減免承認書（様式第五号）を交付する。
- (平一八規則九・平一九規則二三・一部改正)
- (施設等の損傷または滅失の届出)
- 第十条 入館者および使用者は、センターの施設、設備等を損傷し、または滅失したときは、遅滞なくその旨をセンター所長に届け出て、その指示に従わなければならない。
- (その他)
- 第十一条 この規則で定めるもののほか、センターの管理および運営に関し必要な事項は、知事が別に定める。
- 附 則
この規則は、平成二年四月一日から施行する。
- 附 則（平成三年規則第一九号）
(施行期日)
1 この規則は、公布の日から施行する。
- (様式に関する経営措置)
- 2 この規則による改正前の様式に基づいて作成した用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

- 附 則（平成一三年規則第二九号）
この規則は、平成十三年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一五年規則第一四号）
この規則は、平成十五年四月一日から施行する。
- 附 則（平成一八年規則第九号）抄
(施行期日)
1 この規則は、平成十八年三月三日から施行する。
- 附 則（平成一九年規則第二三号）抄
(施行期日)
1 この規則は、平成十九年四月一日から施行する。
- 様式第1号（第6条関係）（平3規則19・一部改正）

年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用承認申請書				
福井県自然保護センターの施設（設備）を使用したいので、次のとおり申請します。				
事業名				
主催者名	所在地		電 話	
	名 称		代表者	
使用施設（設備）				
使用の概略	事業の概要			
	入場料徴収の有無 有 無 (料金 円)			
	推定入場人員数			
	設置する造作物			
使用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			

様式第4号（第9条関係）

年 月 日				
福井県自然保護センター所長様				
申請者 住所 氏名 法人にあっては、その主たる事務所の所在地、名称および代表者の氏名				
福井県自然保護センター使用料減免申請書				
福井県自然保護センターの設置および管理に関する条例第7条の規定により、次のとおり使用料の全部（一部）を免除してくださるよう申請します。				
減免申請の理由				
事業名				
使用施設（設備）				
使用期間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで			
減免を受けようとする額	円			

発 行 日 令和4年11月

編集・発行 福井県自然保護センター
〒912-0131
福井県大野市南六呂師169-11-2
電話 0779-67-1655
F a x 0779-67-1656

印 刷 (株)松浦印刷所
電話 0779-66-2357

22. 11. 14930



福井県自然保護センター